

MOVEMENT

vol. 19

第71期 中間株主通信

2016年4月1日 ▶ 2016年9月30日

CONTENTS

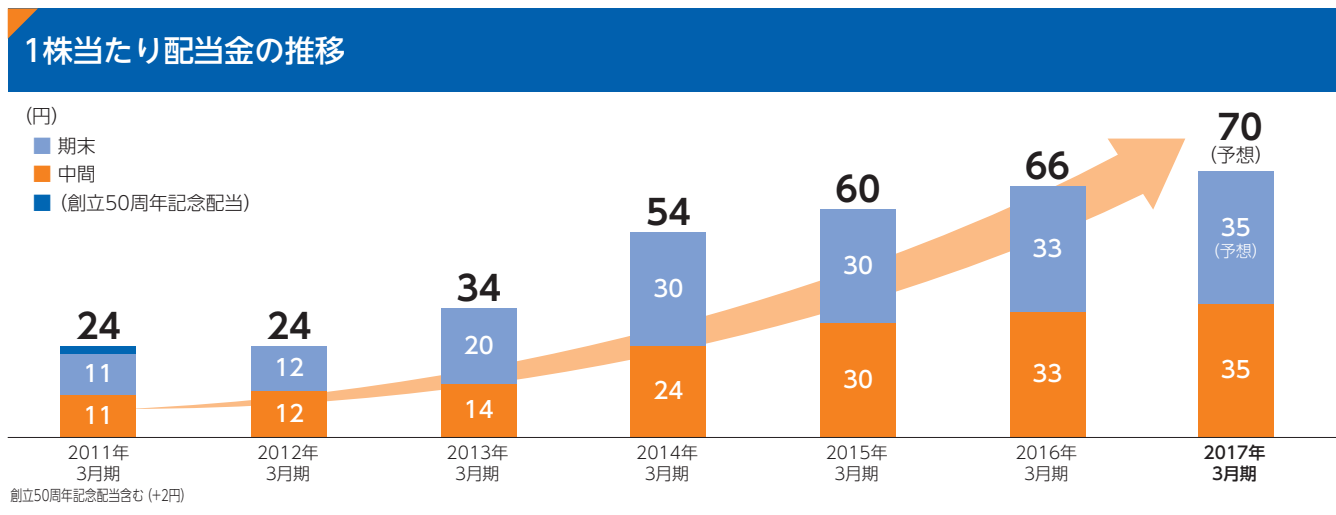
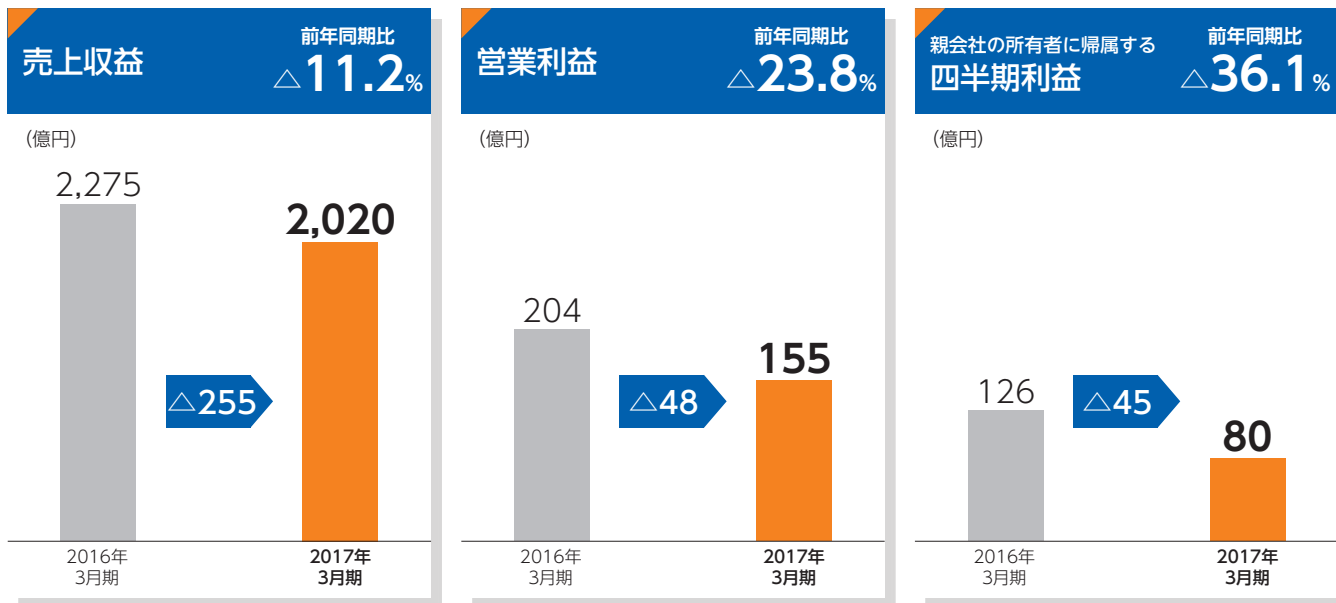
2017年3月期 中間連結決算ハイライト	1
株主の皆さまへ	2
TOPICS	3
社会貢献活動	4
TS Technology	5
Series TS Tech	7
TSグループ	8
連結決算情報	9
会社概要・株式情報	裏表紙



Acura NSX 用シート

T-Tech
テイ・エステック株式会社

証券コード 7313



(注) 1. 2016年3月期より、国際会計基準 (IFRS) に基づいて連結計算書類を作成しています。

2. IFRSに準拠した用語について、日本基準による用語では、「売上高」は「売上収益」、「親会社株主に帰属する四半期純利益」は「親会社の所有者に帰属する四半期利益」となります。

グローバルで事業計画 順調に進展



代表取締役社長
井上 満夫

「第71期中間株主通信MOVEMENT」を お届けするにあたりご挨拶申し上げます

当上半期(2016年4月1日~9月30日)の連結業績は、新機種の立ち上げ費用や中国・広州工場の移管費用などの一過性要因に対しまして、積極的な原価低減に取り組みましたが、為替の円高進行など、外部環境の変化影響が大きく、前期比で減収・減益となりました。

このような環境の中、事業計画については期初計画に従い着実に進捗しております。

この上半期では、日本・埼玉工場の体質改革及び中国・広州の新工場移管が、それぞれ計画通りに完了いたしました。

下半期には、米州・TS TECH ALABAMA, LLC.で、欧州自動車メーカー向け3列目シートフレーム(骨格)の生産開始を予定しております。また、トリムカバーのグローバル補完体制の確立を目的に、昨年バングラデシュに設立しましたTS TECH BANGLADESH LIMITEDも稼動開始を予定しており、引き続き、収益改善に向けた諸施策を着実に実行してまいります。

下半期につきましては、為替変動や主要客先からの受注台数の変動など、さまざまな外部環境の変化が想定されますが、今日まで築いてきました強固な企業体質を基盤に、グループの総力をもって各種施策に取り組み、さらなる体質向上を図ってまいります。

2017年3月期の1株当たり年間配当は、この度実施いたします中間配当35円と、期末配当35円(予想)を加えた70円(前年比+4円)を予定しております。

当グループはこれからも、安定的な株主還元に努めてまいりますので、株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2016年4月

アラバマ建屋拡張完了

TS TECH ALABAMA, LLC.では、2016年12月よりVW向け3列目シートフレームの生産開始を予定しております。これに伴い、2016年4月に建屋を増築し面積が約1.8倍に拡大しました。また新建屋では、部品搬送等の見直しによる物流効率改善も合わせて行いました。



2016年8月

日経IRフェアへ出展

2016年8月26日(金)・27日(土)、東京ビッグサイトにおいて開催された『日経IR・投資フェア2016』に出展しました。

当社ブースでの個別説明のほか、27日(土)には会社説明会も開催。100名以上のお客さまにお越しいただき、入場制限がかかるほど盛況でした。

当社では個人投資家や株主の皆さまとの対話を重視し、今後もさまざまな取組みを展開してまいります。



会社説明会の様子

2016年

4月

5月

6月

7月

8月

9月

2016年8月

バングラデシュ縫製新会社 設備設置完了

トリムカバーのグローバル補完体制確立を目的として、バングラデシュ ダッカ郊外に設立したTS TECH BANGLADESH LIMITEDにおいて、2016年8月に裁断機や縫製用マシンなどの生産設備の設置が完了しました。

現在はスタッフの習熟など、来年1月の稼動開始に向けた準備が順調に進捗しています。



スタッフ習熟の様子

2016年8月

広州工場移管完了

2016年8月、広州提愛思汽車内飾系統有限公司は中国政府からの都市開発計画に伴う移転要請を受け、広州市増城区内において旧工場から北東約12kmの距離に移管しました。新工場は最新設備を導入したほか一貫生産ラインによる製造物流導線の最適化を図り、物流効率を約20%改善しました。また、CO₂削減にも配慮した最新鋭の工場となっています。



新工場の全景

緑の生態系保全活動

TSグループが地球から借りた敷地面積相当分を
緑にして返すことを目標にしています。

TSグループ敷地総面積

緑化
目標 **232万**m²

2012年4月よりグローバルで活動を継続展開

日本



栃木・埼玉・浜松・鈴鹿で森づくり活動

米州



カナダ：州政府主催の「5千万本植樹プロジェクト」に参画

中国



武漢経済技術開発区での植樹

アジア・欧州



インドネシアでの植樹

タイでの森林保全活動

スーパースポーツ

Acura NSX用シート開発現場

先進技術を融合させて、新たな走りの喜びを提案する新型NSXに搭載されている

シート(座席)の開発について開発責任者のシマンスキLPL※に話を聞きました。 ※LPL…ラージプロジェクトリーダー

Q NSXのシート開発について教えてください。

A “NSX”の名前に傷を付けないようシート開発に取り組みました。

NSXはHondaのフラッグシップ(最上位機種)であり、初代NSXが登場したときには業界に衝撃を与えたことを今でも覚えています。クルマの歴史にとっても重要なモデルと言えるのではないのでしょうか。

そのNSXが約10年の時を経て復活するにあたり、シート開発を任されることになったときは[“NSX”の名前に傷を付けないように、一層ステータスを上げるようなシートを開発しなければ!]と責任を感じましたね。

開発にあたっては、フレーム(骨格)の基本設計のみ日本で行われ、以降の開発は生産国であるアメリカのプロジェクメンバーに全面移管されました。

ダン シマンスキ TS TECH AMERICAS, INC.
LPL / チーフエンジニア



Q シートの特徴について教えてください。

A スーパースポーツモデルに快適性を融合させた当社の技術・ノウハウを注ぎ込んだシートです。

お客さまから提示された開発コンセプトは、「人を中心に考えられた設計」であり、高性能かつ、ドライバーにとって扱いやすく、より快適でありながら安全性を兼ね備えるというものでした。

ホールド性と快適性を兼ね備えた面形状



コンセプトを踏まえシートを開発するにあたり、NSXはスーパースポーツモデルのため、高次元の旋回速度でも乗員の身体をしっかりとサポートするホールド性が非常に重要となりますが、合わせて高い快適性の融合を目指しました。

ライバル車のシートを研究したところ、サーキットを走るときは非常に優れたホールド性を発揮している反面、快適性が若干犠牲になっているように感じました。

一般的にホールド性のみを追求してしまうと快適性は損なわれやすくなります。両方を高い次元で両立するのは非常に難しく、快適性にこだわり当社が培ってきた技術・ノウハウを注ぎ込んでいます。

ホールド性を高めたい場合、ボルスター※を大きくするのですが、そうすると日常運転では邪魔になり、快適性や乗降性が失われてしまいます。そこで、それら機能性の絶妙なバランスを、シートの面形状やクッション材の柔らかさを変えてさまざまなパターンを検討し、実際の試作品も数多く造って、フィーリングの確認を行いました。

※ボルスター… シートの座面・背もたれ部の左右に張り出した“膨らみ”の部分

Q 最上質なシートをどのように実現していますか？

A 加工から組立て、検査工程までこだわったプレミアムなシートに仕上げています。

NSXシートへの期待はとて高く、外観品質についても今までにないくらいこだわっています。

例えば、表皮には、スムーズで上質な部位を選別して加工されたセミアニリンレザーと呼ばれる、欧州の高級車などで採用されている高級レザーを採用したハイグレード仕様も設定しました。

さらに、縫製してトリムカバーにする際にも、通常より厳しい表面状態の検査を行い、厳格な基準に合格したもののみ使用しております。加えて、通常より柔らかい生地のため、縫製の際も傷を付けないように細心の注意を払いながら造っていますし、縫製が終わった後、トリムカバーを組立工場に運ぶ際も傷が付かないようにNSXシート専用の輸送ラックを用いて工場間を搬送しています。

「車格にふさわしい最高品質をお客さまに届けたい」という想いで、加工から組立て、検査工程までこだわり、最上質なシートを実現しています。

Q 生産領域での新たな取り組みはありますか？

A スペシャリストによる専用生産ラインを導入して生産品質を向上させています。

初代NSXのシートは日本の専用工場で作られていましたが、今回は車両の生産と同じくアメリカで生産しています。当社の北米既存工場内で最高品質のシートを生産するというのもチャレンジの1つでした。

これまで取り扱っていない高級レザーや複雑な面形状など、生産のハードルは高いものでしたが、既存工場内にNSX専用のコンパクトで少人数の生産ラインを設置しました。

大型の生産ラインに比べて、組立て精度を大幅に向上させられますが、一人当たりの作業量が多く組立て難易度も高いため、スキルの高いスタッフを選抜し、NSX用のシート組立てチームを結成しました。少数精鋭のスペシャリストチームが丹精込めて造り上げています。この手法により、前モデルを上回る、最高品質のシートの供給を可能にしました。



スキルの高いメンバーが選抜されたNSX用シート組立てチーム



熟練の作業員によって一台一台手作業で組立てられる



計測器を使ってパーツの取付け精度を入念にチェック



Acura
新型NSX用シート



座フォーラム

「座る」を極める 2016

超高齢社会と座る。

座フォーラム2016開催

2016年11月19日（土）表参道スパイラル（3Fスパイラルホール）にて、当社が主催する『座フォーラム2016』を開催しました。

今回のテーマは、“超高齢社会と座る。”多方面で活躍されている専門家の方々をスペシャルゲストとしてお招きし、「座る」をテーマにこの社会的課題を解決する糸口について、トークセッションを展開。また、当社の若手先鋭が集まった「座る」を哲学し科学する研究会『座ラボ』からも、この課題解決につながるアイデアを披露しました。

SPECIAL
GUEST



林家たい平

落語家



中村格子

整形外科医
医学博士



喜多俊之

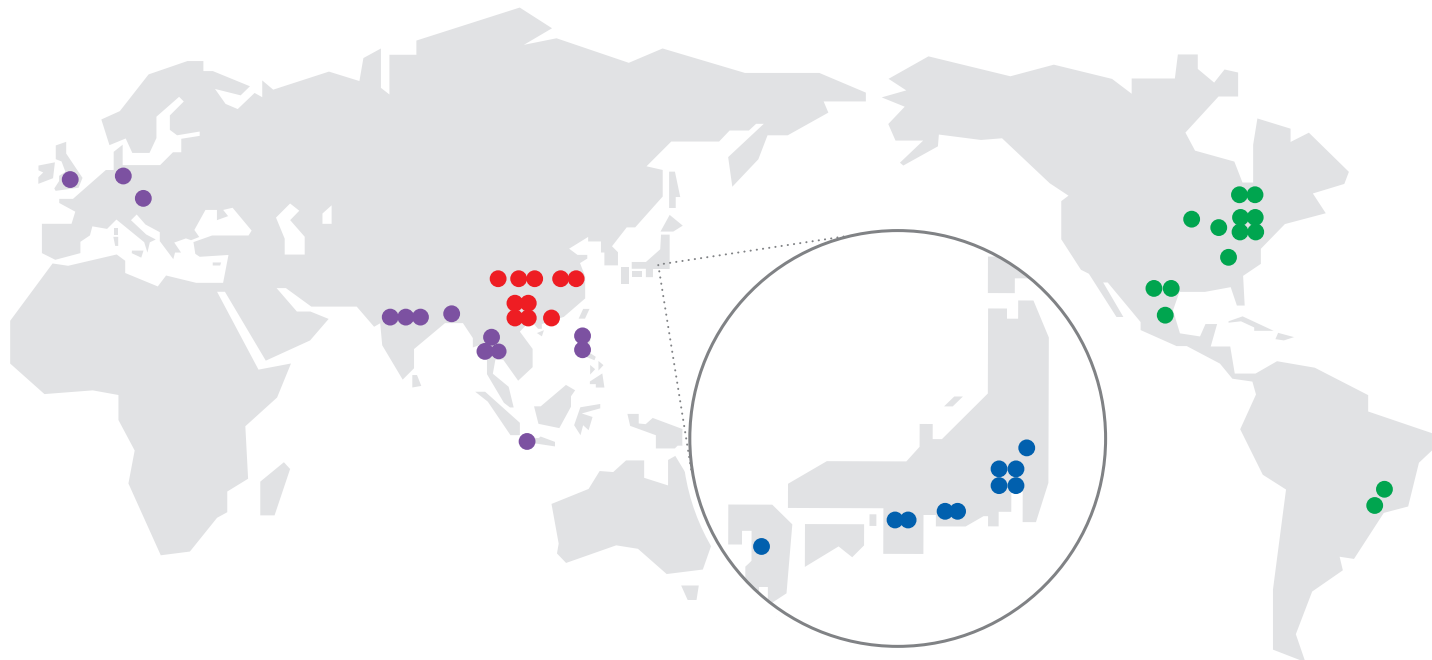
プロダクトデザイナー



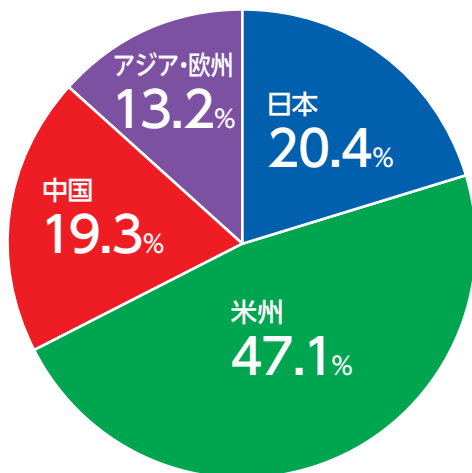
篠原菊紀

脳科学者

世界14カ国からグローバルに製品供給 当第2四半期累計



セグメント別売上構成比



Japan 日本

売上収益： **445億円**
 営業利益： **37億円**
 従業員数： **2,196名**

China 中国

売上収益： **422億円**
 営業利益： **71億円**
 従業員数： **3,240名**

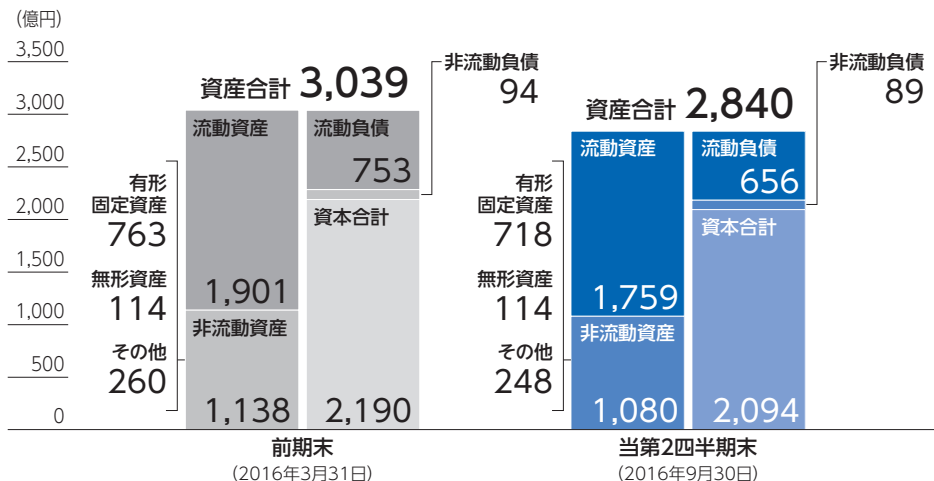
Americas 米州

売上収益： **1,027億円**
 営業利益： **63億円**
 従業員数： **7,453名**

Asia/Europe アジア・欧州

売上収益： **288億円**
 営業利益： **9億円**
 従業員数： **3,248名**

連結財政状態計算書

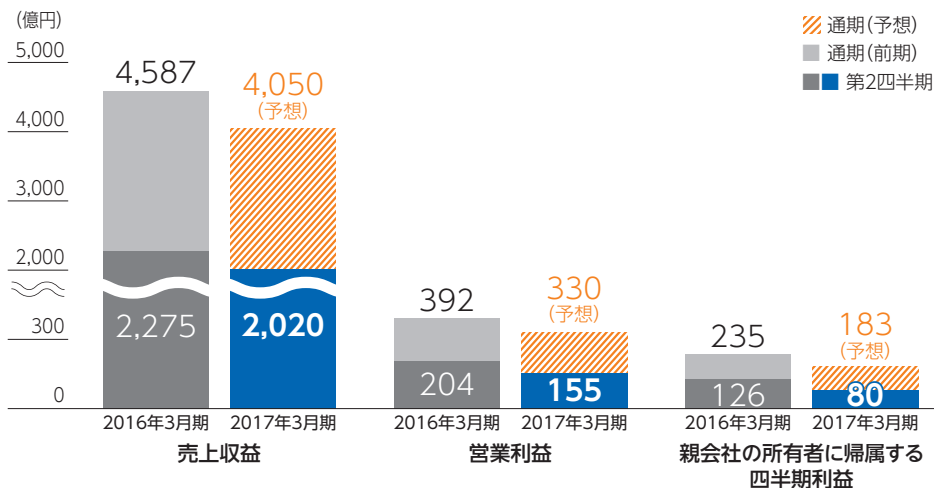


ここがポイント

為替換算影響により
資産・負債共に減少

- 資産合計は、円高による為替換算影響及び配当金の支払い等により「現金及び現金同等物」が減少したことが主な要因です。
- 負債は、為替換算影響に加え、配当金の支払い等により「営業債務及びその他の債務」が減少したことが主な要因です。

連結損益計算書 (通期見直し)



ここがポイント

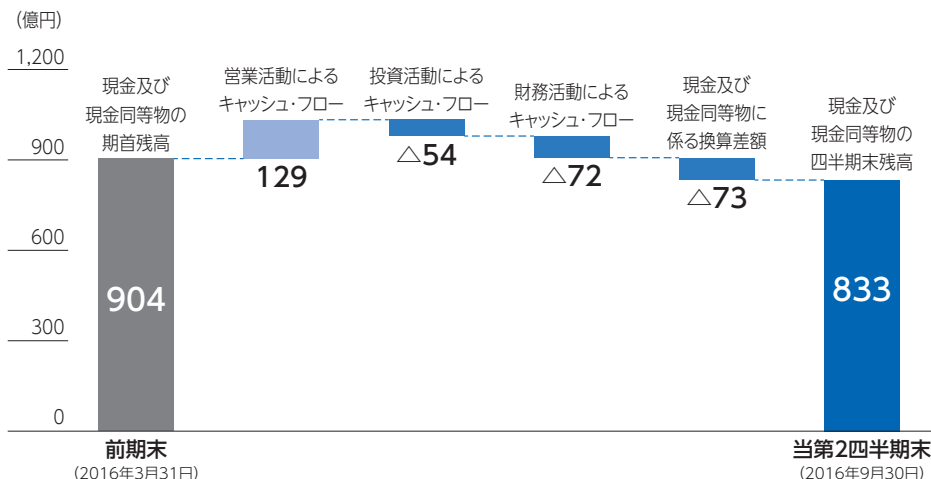
為替影響により減収・減益

- 売上収益は、機種構成の変化に加えて、円高による為替影響により減収となる見込みです。
- 営業利益は、積極的な原価低減活動を展開するものの、主に円高による為替影響により減益となる見込みです。

(注) 1. 2016年3月期より、国際会計基準 (IFRS) に基づいて連結計算書類を作成しています。

2. IFRSに準拠した用語について、日本基準による用語では、「売上高」は「売上収益」、「親会社株主に帰属する四半期純利益」は「親会社の所有者に帰属する四半期利益」となります。

連結キャッシュ・フロー計算書 (第2四半期)



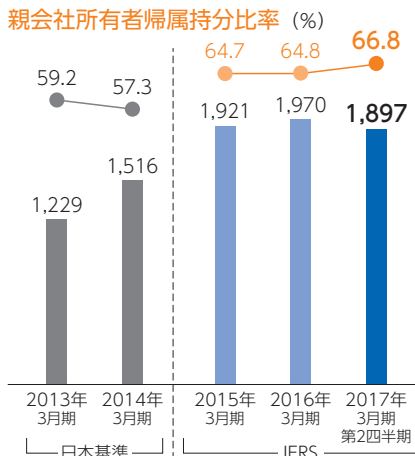
ここがポイント

利益増加による資金増加があったものの円高による為替換算差額の発生により資金減少

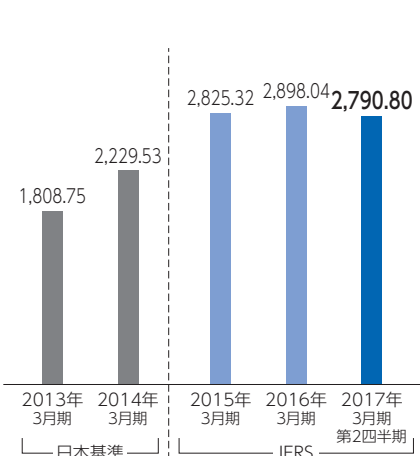
- 営業活動により得られた資金は、“税引前四半期利益”148億円が計上されたことが主な要因です。
- 財務活動により支出した資金は、“非支配持分への配当金の支払額”が発生したことが主な要因です。
- 現金及び現金同等物に係る換算差額の減少要因は、円高による為替換算影響によるものです。

各種指標

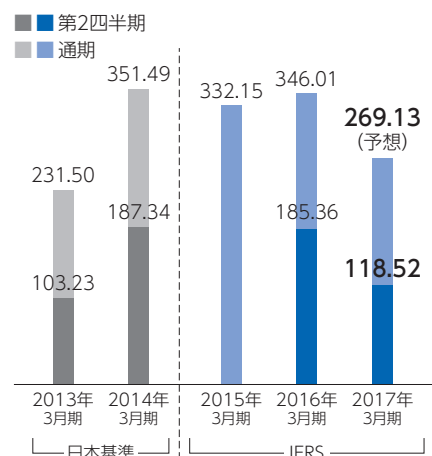
親会社の所有者に帰属する持分 (億円)



1株当たり親会社所有者帰属持分 (円)



基本的1株当たり利益 (円)



(注) 1. 2016年3月期より、国際会計基準 (IFRS) を適用しておりますが、比較可能性の向上のため、2015年3月期についてもIFRSで記載しています。
 2. IFRSに準拠した用語について、日本基準による用語では、「自己資本」は「親会社の所有者に帰属する持分」、「自己資本比率」は「親会社所有者帰属持分比率」、「1株当たり純資産」は「1株当たり親会社所有者帰属持分」、「1株当たり純利益」は「基本的1株当たり利益」となります。

会社概要 (2016年9月30日現在)

商号 ティ・エス テック株式会社
設立 1960年12月5日
資本金 4,700百万円
事業の内容 四輪車用シート、四輪車用内装品、二輪車用シート、二輪車用樹脂部品等の製造販売
従業員数 16,137名
主な取引先 本田技研工業株式会社、株式会社本田技術研究所、株式会社ホンダトレーディング、株式会社ホンダアクセス、スズキ株式会社、ヤマハ発動機株式会社、川崎重工業株式会社、パラマウントベッド株式会社

役員 (2016年9月30日現在)

取締役社長 (代表取締役)	いのうえ みちお 井上 満夫	取締役	はせがわ けんいち 長谷川 健一
専務取締役 (代表取締役)	ゆい よしあき 由井 好明	取締役	いがき あつし 井垣 敦
専務取締役 (代表取締役)	やすだ まさなり 保田 真成	取締役	ありが よしかず 有賀 義和
専務取締役	まえだ みのる 前田 稔	社外取締役	きたむら しずお 北村 静夫
常務取締役	なかしま よしたか 中島 義隆	社外取締役	むたくち てるやす 牟田口 照恭
常務取締役	よしだ ひと均 吉田 均	監査役	うざわ まさお 鵜澤 雅夫
常務取締役	ませ こういち 間瀬 恒一	監査役	やまざき せんぞう 山崎 仙三
常務取締役	はやし あきひこ 林 晃彦	社外監査役	もとだ たつや 元田 達弥
取締役	あらい ゆたか 新井 裕	社外監査役	かわした あきら 川下 明

当社の決算情報をはじめ、株主優待のご案内などは、当社 IR サイトでも詳しくご案内しております。

<http://www.tstech.co.jp>



株式情報 (2016年9月30日現在)

発行可能株式総数 272,000,000株
発行済株式総数 68,000,000株
株主数 8,131名

大株主 (上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	出資比率(%)
本田技研工業株式会社	15,360	22.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,191	4.7
三井住友海上火災保険株式会社	2,451	3.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行再信託分・株式会社三井住友銀行退職給付信託口)	2,199	3.2
住友生命保険相互会社	1,940	2.9
MSIP CLIENT SECURITIES	1,790	2.6
株式会社埼玉りそな銀行	1,720	2.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,588	2.3
株式会社ブリヂストン	1,536	2.3
太陽生命保険株式会社	1,400	2.1

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
単元株式数 100株
基準日 定時株主総会の議決権 毎年3月31日
 期末配当 毎年3月31日
 中間配当 毎年9月30日
株主名簿管理人および 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
特別口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 東京都杉並区和泉二丁目8番4号(〒168-0063)
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
公告方法 電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。
 公告掲載URL (<http://www.tstech.co.jp>)